道肢連協

肢体不自由児者に温かい理解を

No. 400

2025.4.30 発行

昭和51年8月17日第三種郵便物承認
令和7年4月30日発行
年４回　1・4・7・10月の30日発行

春号

発行者
(公財)北海道肢体不自由児者福祉連合協会　会長 清水 誠一
〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目
TEL 011-241-8391　FAX 011-251-5027
HP http://www.h-doshikyo.jp

根室（クリスマス会）

登別（クリスマス会）

北見（新春の集い）

作品コンクール

目　次
Contents

療育キャンプ・レクリエーションレポート …… 2~5

令和６年度第２回父母の会会長・事務局長会議/第５回理事会 … 6

令和７年度の主な事業計画及び収支予算 … 7

『会報400号発行を迎えて』
公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会
会長　清水誠一 … 8

第72回『手足の不自由な子供を育てる運動』作品コンクール開催　ほか …… 9

釧路大会要望事項・大会予告 …… 10

連載エッセー
●NPO法ホップ障害者地域生活支援センター代表理事
竹田　保 …… 11

みんなの力　赤い羽根共同募金　ここにも役立てられています

療育キャンプ・自立支援研修事業（レクリエーション）活動報告

令和６年度の療育キャンプ・障がい児者自立支援研修事業（レクリエーション）の活動お疲れさまでした。申請様式が変わるなどし、皆様には何かとご協力いただきありがとうございました。

年度は変わりましたが、前年度の皆様の活動をご報告します。今年度もよろしくお願いいたします。

療育キャンプ

〈 札幌父母の会　11/16～17 〉

7月に道肢連協にて開催された全肢連北海道ブロック指導者育成セミナーにおいて、災害時の対応について学ぶ機会がありました。災害時個別避難訓練・計画策定の必要性もすすめられている中ではありますが、聞くと大切だとわかるところを未だ周知されているような感覚がないのが現状で、これを当会でもぜひ取り入れたいと思い、セミナーの講師であった日本防災士会理事の伊藤先生に、札幌でも講師をお願いしました。

札幌の気候や土地の形状、特徴により、どのような災害が予想されるか、またその避難について、参加者の居住地域に合わせてお話をしてくださいました。

また、国土交通省や市町村、ＮＨＫなどでも公開されているハザードマップの見方や、避難所の確認などにも触れ、特に避難完了までの行程をさかのぼって予測する「マイ・タイムライン」の作成は、とてもわかりやすく、参加されていた方々も熱心に聞き入っていました。

当事者の方も講義に参加していましたが、会場の外でもボランティアの方と施設内を散歩したり、部屋でゆったりとしたりして過ごしました。

講義終了後は入浴ボランティアさんのお手伝いで、大きいお風呂に入れていただき、そのあとは伊藤先生を囲んでみんなで会食をしました。

食事の後は恒例になったカラオケ大会を開催しました。山内会長の歌声からスタートし、伊藤先生や初めて参加してくださったお父さんも歌って、「カラオケ」ではあるものの、結局みんなで大合唱になり、とても盛り上がり、事故なく終了することができました。

レクレーション

〈 旭川　1/25　新年会 〉

夕食をかねての会食をしながらの新年会になりました。未だにコロナやインフルエンザの流行が収まらないですが、協力者には簡易キットで検査をしていただきました。

本会員の障害児者は自ら何かを出来る方が少なく、私達は家族だけでは難しい冬の外食を通して、視覚　聴覚　触覚　臭覚　味覚の発達を促し、少しでも多くの刺激や経験をすることで、障害児者が何かを感じ得る事が一つでも増える事を目的としました。協力者の方々にも街での補助や介助の経験ができ、良かったと考えています。

〈 根室　12/15　クリスマス会 〉

クリスマス会を開催するため、ボランティアも含め、参加者全員で、ピザ、ケーキ作りをみんなで協力しながら準備をし、その過程の中で親睦を深め、楽しい時間を共有しました。

参加者全員の声として、R7年度のクリスマス会は「餅つき」にチャレンジしてはどうだろう、などなど、そんな話が出るほど、和気あい

あいとした雰囲気でした。

ピザとケーキ作りがんばりました！

〈 札幌　8/7　海水浴 〉

今年も小樽ドリームビーチと札幌西ライオンズクラブ様、海の家大浜家のご協力のもと、海水浴事業が開催されました。

毎年SDGｓの考え方に沿い、海を大切にする活動や身体機能の改善、ボランティア活動の場として、海水浴事業を通して多岐にわたり楽しく活動することを目的としています。

海水浴活動前に砂浜の清掃を行います。高校生ボランティアさんの手も借りて、砂浜にあるごみや大きな石などを拾って、けがを未然に防ぎ、活動しやすい場にしました。

海水浴では高校生のみなさんや、生活介護事業所の職員さんがボランティアとして参加してくださったので、浅瀬を利用して、泳いだり歩行したり、いかだに乗って体幹を鍛えたり、チャレンジしていました。高校生ボランティアの皆さんも、障がいのある人とかかわることが初めてという方も多くいたのですが、目線を合わせて笑顔でゆっくり話すなど、個々に工夫されてかかわっていました。

昼食は大浜家さんの豚汁とおにぎりをおいしくいただきました。

午後の活動の一つ目は宝探しゲームです。ひもで縛られた宝物を砂浜に隠し、見つけたらひもを引っ張り宝を取り出す作業は、簡単には手に入らないので、それぞれボランティアさんと相談しながらゲットしていました。

すいか割りゲームも、目隠しして棒ですいかを割るという作業がとても難しく、なかなか割ることができない方もいましたが、ボランティアさんと棒を選び、すいかに棒が当たった時には、みんなで喜んでいる様子がとても楽しそうで、企画側もうれしくなりました。

最後は高校生ボランティアさんがしっかりと割り、みんなでおいしくいただきました。

閉会式までの間の時間で海の家のシャワーをお借りして身支度を整え、事故なく無事終了しました。

助けを借りて泳いだり歩いたり

〈 札幌　12/8　クリスマス会 〉

令和6年度のクリスマス会は、市立札幌北翔支援学校屋内運動場を会場に、特別支援学校の先生方によるクリスマスコンサートと、よさこいソーランで名門のチームが参加してくださり、盛大に開催できました。

クリスマスコンサートは演奏者を囲むように座席を用意し、美しい歌声と素敵な演奏を間近で鑑賞できました。

また、みんなで歌える歌は参加して、歌ったり踊ったり、楽器を手に持ち演奏に参加したり、みんなが演奏者になったようでした。

よさこいソーランは優秀賞を受賞された「新琴似天舞龍神」の皆さんが演舞を披露してくださいました。力強くてしなやかで、迫力ある踊りに参加者の皆さんはくぎ付けで圧倒されてい

ました。

クリスマスに合わせてくださったのか、クリスマスカラーの衣装も素敵でした。

参加者みんなで踊る「よっちょれ」では、天舞龍神の皆さんが会場をまわり、鳴子を持って楽しく踊りました。障がいあるなしに関係なく参加できるよさこいは、当会のクリスマス会では必須になりそうです。

そして、札幌西ライオンズクラブの皆様には、今年もサンタクロースになっていただき、参加者たちへプレゼントを届けてくれました。家族で参加してくれたきょうだい達にももちろん、プレゼントが届きました。

これまで事務局数名で実施していたクリスマス会も、飾りつけや運営、司会など会員の皆さんがたくさんサポートしてくれました。これからも少しずつ助け合って行事に取り組めるよう、工夫をしていきたいと思います。

全肢連、北海道コカ・コーラボトリング様にもご支援いただきました。ありがとうございました。

プレゼントの中身が気になります♪

〈 千歳　1/28　合同誕生会 〉

今年は、手作り昼食（お好み焼き）とおやつ（チョコフォンデュ）に挑戦しました。

自分で作るものは美味しいようで、おかわり連発で（困った！）お手伝いの方の分がなくなりました。また、チョコフォンデュも初めてらしく、いつもくだものや甘いものを食べない人も、チョコにまみれて自分ですくって食べたりして、大盛況でした。

食べながら、演奏を聴いたり、職員とボランティアの桃太郎は指をさして、大声を出して喜んでいました。

また、棒引きも紐を引っ張ってその先に何がついているのか（景品）見入っていました。今回は、仲間の飛び入りでカリンバの演奏もあり、楽しんでいました。

自分達で焼いたお好み焼きは格別です！

〈 士別　2/2　交流会 〉

今年も誰ひとり欠けることなく、再び集まれたことを互いに喜び合いました。

インフルエンザに注意するよう、情報交換をし、春を迎えるまで元気でいられる事を励まし合いました。障害児者らも賑やかな雰囲気に笑顔を浮かべ、ゲームの景品当選にハラハラドキドキの時間を過ごしました。

交流会の後はハラハラドキドキのビンゴ大会

〈 登別　12/15　クリスマス会 〉

今回のクリスマス会も２回目のモルックを家

族同士で対戦し、ボランティアさんの協力を得ながら、賞品を目指し、真剣勝負を楽しみました。

今回は投げる事が難しい方の為に、役員が素敵なスロープを作成してくれたので、とてもゲームしやすく、子供達も達成感があったと思います。

また今年は、登別ロータリークラブ様より、飲み物とケーキの寄付をいただき、参加者は美味しくいただきました。本当にありがとうございます。

最後はビンゴとサンタさんからのプレゼントをもらい解散しました。

人数は少なかったですが、体も動かしすっきりしました。

家族同士で真剣勝負です！

〈 登別　2/23　親睦会 〉

今年度、皆で集まる最後の行事として、茶話会も兼ねた親睦会を行いました。

クリスマス会に参加できなかった会員さんや、ボランティアさんと、本会で好評のモルックをまた家族対抗戦で行いました。

冬場は特に家に閉じこもりがちですが、親子揃って体を動かし、景品を目指して、なかなかの接戦にとても盛り上がり楽しい時間を過ごしました。また、久しぶりにお弁当も一緒に食べながら話も弾み、ゆっくりする会員や、午後からもう一度モルックをする会員など、充実した一日となりました。

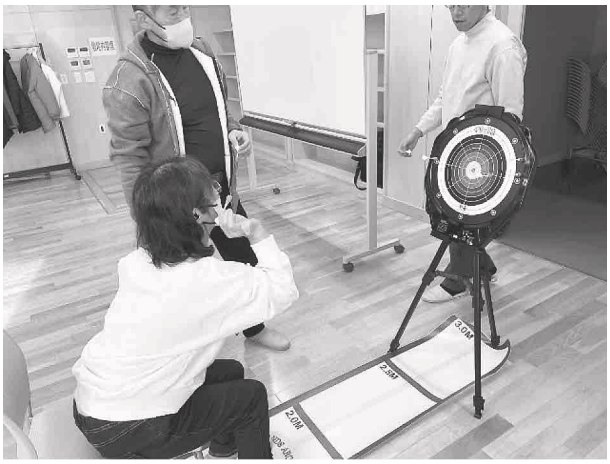
〈 帯広　2/22　新年会 〉

2/4の超大雪…もなんとか除排雪がすすみ、参加者全員集まる事ができました。

久しぶりに会う会員もおり、ゲーム中や昼食時に会話が多くありました。

〈 北見　2/2　新春の集い 〉

・会員全員が集まる事は出来なかったが、会員同士の近況について直接会話を行う事が出来た。
・親睦会を通じて、会長会議に参加した内容・次年度の催し物の時期を共有できた。



ハンドアーチェリー意外と難しいんですよ！

〈 幕別　10/26　親睦交流会 〉

久しぶりの行事でした。

自分達で用意した道具で、簡単なものですが、運動不足がたたり、足がもつれて、うまく的に当たりませんでしたが、皆で協力しあい、快い汗を流して楽しい一日でした。

〈 幕別　1/17～18　交流会 〉

折り紙で、いろいろな大きさの鬼を折り、ハガキを横にしたり、縦にして好きなように貼り、言葉を書いて、ワイワイしながら作成しました。

座っていても、膝が痛い、腰が痛いと言いながら、口を止めることなく、楽しい時間を過ごしました。

令和6年度第2回全道父母の会会長・事務局長会議を開催

令和７年１月２４日（金）、札幌のかでる２・７会議室において、１６名が参加して、父母の会会長・事務局長による、肢体不自由児者における現状の課題・問題点について意見交換が実施されました。

結論に至らなかったものの、積極的な意見交換がされました。

【意見交換の内容】

①　会員の高齢化と退会に伴う会員数の減少について

・各事業の参加者が減少している

・行事等において地元のＯＢからの協力が得られている

②　移行医療（患者が１８才以上になった場合）に伴う地域の課題について（地元の医療機関の現状）

・継続して小児科で診てもらえる

・専門医が地域にいない

・医療機関はあるが、患者が多くて受け入れてもらえない場合がある

・療育キャンプは地域の医療機関のスタッフにも参加してもらっているので、患者情報の共有化に関して有効な方法である。

③　障害年金

・物価は上昇しているが、それに見合った上昇になっていない

④　相談支援事業所の対応について

⑤　特別障害者手当の更新に係る取扱について

令和6年度第5回理事会の開催

令和７年３月１４日（金）開催　理事９名　監事１名

（審議事項）

①令和７年度事業計画、②収支予算（一般会計、特別会計）、③第５８回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会・第３４回全道肢体不自由児者福祉大会(札幌)

審議の結果、３つの議案とも提案とおり承認されました。また、報告事項については、①令和６年度一般会計並びに各特別会計に係る収支決算見込み、②第３３回全道肢体不自由児者福祉大会（釧路大会）の決算、③令和６度療育事業（作品コンクール）実施結果について説明し、了承されました。

北斗父母の会、岩見沢父母の会の解散について

各父母の会におかれましては、会員数の減少や会員の高齢化などの理由により、令和６年度の活動をもって解散する旨の申立がありました。

これまでの道肢連協からの支援と協力に対するお礼もいただきました。

なお、北斗父母の会おいては、今後、函館父母の会に編入するなどし、活動を継続していくとのことでした。

「令和7年度における事業計画及び収支予算」について

今年度は全国肢体不自由児者父母の会全国大会・全道肢体不自由児者福祉大会(札幌大会)の開催を９月に予定しています。引き続き、関係機関、団体等の支援協力をいただきながら、各種事業を実施します。

○主な事業計画

１．療育・自立支援事業

⑴ 作品コンクールの実施

「手足の不自由な子どもを育てる運動」の取組として、手足の不自由な子どもの作文、詩、図画、書道等を募集し審査の上、優秀作品の表彰・一般展示を行う。応募見込総数　300点　知事賞のほか表彰４９作品　優秀作品の一般展示を実施。（令和８年１月下旬）

⑵ 育英奨学金

岩田・アメフト育英基金から、肢体不自由であって経済等の困難な事情にある特別支援学校高等部等の高校生に奨学金を交付。（募集期間５月～７月　交付予定１３人、一人３万円。

⑶ 療育キャンプ

在宅の障がい児者及び家族が、専門機関の医師やPT、OT等医療職から、日常生活や社会活動における正しい知識や訓練方法等の指導を受けるとともに、参加者の研修や交流を深める事業を父母の会に対して助成。開催予定１０地区

⑷ 自立支援研修事業

肢体不自由児者の自立と社会参加を促すために自立支援研修活動を実施する父母の会等に対して助成。開催予定延数２５回

⑸ ホームヘルパー活動

障がい児者の自立援助及び家族の負担軽減のため、協力員ヘルパーを家庭に派遣する父母の会に対して、活動の経費及び協力員ヘルパーを対象とする研修会費用を助成。

２．研修交流事業

⑴ 父母の会会長・事務局長会議（研修）

協会・父母の会の活動に資するため、福祉制度・施策や先進事例等の研修を行い、あわせて、活動における諸課題の解決に向けた意見・情報交換を行う。（年１回　令和７年６月１５日予定）

⑵　全肢連北海道ブロック地域指導者養成研修会

父母の会の活動を担うリーダーを育成し活性化を図ることを目的として、全肢連が主催する全国７ブロック別研修会での北海道ブロックとして開催する。（令和７年６月１４日～１５日予定）

⑶ 通園施設職員等研修会

肢体不自由児通園施設、特別支援学校等の職員を対象に障がい児療育に係る知識、技術の修得・向上を目的とする研修会を、旭川こども総合医療センターの協力により開催。

３．情報提供・啓発事業

⑴　「手足の不自由な子どもを育てる運動」の推進

日本肢体不自由児協会が作成する「絵はがき」、「クリアファイル」を頒布・寄付金を広く道内の団体・法人、企業、行政機関等に募ることを通じて肢体不自由児者への理解と啓発に努める。

⑵ 会報の発行（年４回）

４．協会運営、財源確保

理事会３回（４月、９月、３月）、定時評議員会（５月）、監事監査（４月）を開催。円滑な運営のため、会長・副会長会議を適宜開催する。

協会の活動への理解を広げ、運営資金の支えとなる協力会員をより多く募るとともに、「手足の不自由な子どもを育てる運動」の絵はがき等による募金活動や、清涼飲料水のチャリティ自動販売機設置・寄付還元金の確保・促進の取り組みを父母の会と連携して進める。

「道肢連協　会報400号を迎えて」

公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会
一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合協会
会　長　清水　誠一

道肢連協(公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会)の歴史は、昭和29年10月北海道肢体不自由児福祉協会として設立、昭和52年4月に北海道肢体不自由児父母の会連合会(31支部)と北海道肢体不自由児福祉協会が合同して財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会となり平成25年公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会となります。

この度、道肢連の会報が400号を数え、第1号から今日まで半世紀の歩みを育んでまいりました。

今から50年前、昭和50年に発行された道肢連会報は、10月4日～5日旭川で開催された「第3回全道大会・第8回全肢連全国大会」の概要が載せられ、テーマは「みんなとともに未来を開こう」です。

【全国大会スローガン】は「肢体不自由児者にもっと光を愛の手を」として5項目に亘り(1).在宅重症児者のために生活保障の充実を速くはかろう。(2).教育対策の早期完全実施を強くはかろう。(3).障害者の職場開拓と拡充を強くはかろう。(4).生活環境の条件整備を強くはかろう。(5).父母の会組織の強化と連帯意識の高揚を強くはかろう。分科会は1.乳幼児部会、2.児童部会、3.成人部会、4.組織部会の4分科会として、参加者は道外300人、道内800人の規模で活発に開催されています。

この当時は、措置制度の時代で障害福祉サービスを必要としている人に対し行政が必要性を判断して施設や福祉サービスを決定する制度となっていました。現在のように児童発達支援デイ・放課後デイや生活介護事業所等を在宅障害児者が利用できるのは平成25年の障害者総合支援法からです。

また養護学校は昭和54年義務制が施行されましたが、自宅から遠距離の場合、寄宿舎に入るしか手段がなく地域の小中学校に通えませんでした。現在は小中学校に特別支援学級があり通学が可能です。

昭和56年に国連が提唱した「国際障害者年“完全参加と平等”」を契機に、障害各法・制度の改正改定を重ね、国の障害福祉制度も「措置から契約への大転換」が平成15年の支援費制度・平成18年の障害者自立支援法が制定されたことで「重い障害がある人や医療的ケアを必要とする人」たち、誰もが福祉サービスを利用して地域で自立して生活できる時代となりました。

しかし障害福祉サービスのニーズに対応できる事業所や必要な障害福祉サービスの給付で、特に訪問介護系で日数・時間について単位(市町村決定)を認めない等の地域間格差や医療職・支援員の人材不足で希望するサービスが質・量ともに不足していることは今後の課題と危惧しているところです。

令和7年(本年度)の「指導者育成セミナー」は、親の高齢化と子どもたちの将来に向け安心して暮らすことのできる住まいのあり方(グループホーム・自立した生活)に視点をあてる他、障害福祉サービス給付に係る地域間格差の課題等について6月14日(土)から15日(日)に開催します。

9月27日(土)～28日(日)に全肢連全国大会・全道大会を平成30年の函館大会に続き、かでる2・7で開催します。この大会は3障害共通の制度として成立した「障害者自立支援法」制定から20年を経て障害当事者・家族の現状と障害福祉制度の問題点並びに改善方向など会場一体で疑問点を洗いだし討議を重ね未来に向け一歩とする大会を目指しています。多くの会員の皆さまご出席をお願いいたします。

終わりに、地域支部・父母の会会員皆さまのご健勝とご活躍を祈念するとともに道肢連協に対し更なるご支援・ご協力賜りますことお願い申し上げ挨拶といたします。ありがとうございます。

令和7年4月30日

第72回
『手足の不自由な子どもを育てる運動』作品コンクール開催

1月27日・28日（2日間）道庁本庁舎１階において、入賞作品49点（応募数総274点）を展示しました。（手足の不自由な子どもの部　作文・詩2点、図画13点、書道8点、手芸・工作13点、友情の部　図画13点）

今年は両日とも天気も良く、入賞された生徒さんが何人も来場され作品の前で記念撮影をされていたり、来場者からあたたかいお言葉もいただきました。

次回もたくさんの作品をお待ちしております。

協力会員になっていただきありがとうございます

《普通会員》
佐藤　繁子（伊達父母の会会長）（敬称略）

ご助成、ご寄付ありがとうございます

北海道共同募金　様

金 1,150,000円

この度いただいたご支援につきましては、当協会における事業さらには道内父母の会の様々な活動に有効に活用させていただきます。心より感謝申し上げます。

第33回全道福祉大会における決議事項の道及び関係市町からの回答について

令和６年９月7日から８日開催され全道釧路大会における「大会決議文」の１１項目について、道及び父母の会が所在する市町あて、各項目における対応状況について回答があり、回答の全文及び概要について取りまとめ、当協会のホームページ掲載する予定です。

措置状況の照会／令和７年１月２３日付（回答期限　令和７年２月２１日）

- 回答状況内訳／回答有　２１道市町、未回答　５市町

一、障がいのある人の人権が守られ「すみ慣れた地域で自分らしく生きられる社会」を実現すること
一、障がい福祉サービス等の介護給付において地域で格差を生じない支援の充実を図ること
一、重度重複障がい児者や医療的ケアを必要とする児者がどの地域でも必要な医療を受けられること
一、障がい児者福祉計画の策定にあたっては障害ニーズを把握し種別･程度に即した計画とすること
一、重度障がい者(医療的ケア含む)が安心して暮らせるグループホームの整備を促進させること
一、重度障がい児者が緊急時に利用できる短期入所施設の不足を早期に解消させること
一、道内の移動支援事業で冬期間や交通インフラが遅れている地域にあっても外出の手段を講じること
一、北海道のどの地域でも重度障害者の暮らしに対応できる「第1期ほっかいどう障がい福祉プラン」となるよう市町村への支援を行うとともに、道内の地域格差を是正すること
一、所得保障、障害者年金の増額及び地域で自立した生活が出来る障害福祉サービスの充実と保障
一、災害時、福祉避難所の充実、また、障がい者が利用可能な仮設住宅の設置
一、災害時、直ちに対応できる「災害時個別避難計画」をサービス等利用計画作成時に同時策定すること

「第58回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会 兼第34回全道肢体不自由児者福祉大会」の開催について

【大会概要】

１．大会趣旨　：令和６年度から障がい福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本指針（厚生労働大臣告示）に基づき、市町村等が、障がい福祉サービス等の質を向上させるための体制を構築することとなりました。

地域においては、医療及び障がい福祉サービス事業所の人材不足により、必要な医療・福祉サービスが地域で利用できない「地域格差」や親子ともども支援者の高齢化に対する諸問題「親亡き後の問題」、「生活保障の安定」そして「多発する災害への対応」など、住み慣れた地域で「安心、安全」に暮らすための共生社会の実現には、未だに十分な施策支援が行き渡っていない状況にあります。

北の大地北海道（札幌）において全国の仲間が集い、障がい児者を取り巻く医療･福祉の環境の改善に向けた課題について共有するとともに一つでも解決できるよう、広く提言していく場として本大会を開催します。

２．大会テーマ(仮)：「住み慣れた地域で共生社会の現実」
～響け　希望の声 !! 希望するすべての障がい児者が安心して暮らせる地域生活を目指して～

３．開催期日　：令和７年９月２７日（土）～　９月２８日（日）

４．開催場所　：北海道立道民活動センター（かでる２・７）
〒060-0002　札幌市中央区北２条西７丁目　TEL　011-204-5100
＜情報交換会＞　ＡＮＡクラウンプラザホテル札幌　３階　鳳の間

【実施内容】

令和7年2月25日（火）札幌市障害者福祉センターにおいて、第２回企画会議を開催し、肢体不自由児者が、「乳幼児から成人」及び「青年から高齢」の移行時において、現状で困っていることや課題などを題材として提起し、大会に参加された方々にも積極的に発言し、意見交換できる参加型の大会を目指し、今後実施内容を決めていくこととしております。

連載エッセイ No.28

浮萍一道（ふひょういちどう）開く

● NPO法人ホップ
障害者地域生活支援センター
代表理事　竹　田　　保

札幌でも、桜のつぼみがほころび始めました。長い冬を室内で過ごす私たちにとって、春は特別な季節です。窓から差し込む陽ざしが暖かくなり、道の雪が溶けて外出が楽しみになるそれだけで、気持ちが明るくなります。

しかし、今年はその春を心から喜べない現実があります。報酬改定により報酬が減額され、訪問介護事業所の運営が厳しくなっているとの報道が目に付くようになり、特に北海道は広域で人口が少なく、冬期間には吹雪や凍結した路面のため、訪問先への移動時間が通常の数倍かかることも珍しくありませんが、こうした移動時間やコストが報酬には反映されず、事業所の収支は悪化する一方で、その結果、廃業やサービス縮小が相次ぎ、地域の訪問介護の担い手不足が深刻になっています。

私自身、支援者による支援がなければ外出どころか日常生活も成り立ちません。訪問サービスが縮小されることは、障がい者にとって大きな不安です。桜が咲き始めても、人材不足の影響で気軽に外出できない方が増えていることを、日々のピアサポートの活動を通じて痛感しています。

そんな中、私が今、ひそかに期待していることが二つあります。一つは今年開催される大阪万博、もう一つは外国人技能実習生による訪問分野への参入拡大です。

大阪万博は、最新の福祉テクノロジーが世界から集結する絶好の機会です。目の動きや考えただけで操作可能な電動車いすや、AIによるコミュニケーション支援、そして人型ロボットなど、これまで空想でしかなかった技術が現実のものとして登場するかもしれません。人材不足を補うための技術革新が、私たちの想像を超える速さで進んでいるのです。こうした革新的な福祉技術に実際に触れる機会を持てば、私たちが抱えている課題の解決策が見えてくるかもしれません。

ただし、障がい者が実際に万博へ参加するとなると、交通手段や宿泊施設、介助者の確保など、多くのハードルが存在します。特に電車や飛行機での移動は、車いす利用や介助者の同行など、大きな負担と準備が必要です。それでも、最新技術を目の当たりにし、未来への希望を掴むために、一度は行ってみたいと思っています。

外国人技能実習生の訪問介護分野への拡大も、人手不足解消への大きな可能性を秘めています。高齢化や人口減少が進み、特に北海道のような地域では、担い手不足が常態化しています。外国人の方々が介助者として地域に根付くことで、訪問サービスの安定化や質の向上につながると期待しています。しかし、具体的な研修や受け入れの枠組み、言葉や文化の違いを克服するための仕組みづくりなど、課題も多く、今後、自治体などがどのような体制を整えるか、関係者の知恵が求められます。

万博開催や外国人実習生の受け入れ拡大のニュースを聞くと、私は春の訪れを待ち望む気持ちに似た期待感を抱きます。まだ具体的な成果が見えない状況ですが、少しでも明るい兆しが見えれば、それを励みに課題を乗り越えていける気がします。

今、私たち当事者ができることは、自分が日々感じている困りごとを積極的に周囲に伝えることだと思います。現場の実情や当事者の声をきちんと伝えることで、行政や事業所、政策を考える方々にも理解が深まります。そうした積み重ねが報酬体系の見直しや新技術の導入促進につながり、地域の訪問介護が持続可能になると信じています。

春を心から喜べる日を迎えるために、私たちが声を上げ続けることが大切です。一人の声は小さくても、障がいを持つ人々やその家族、支援者が力を合わせれば、社会を動かす大きな力になります。桜の花が満開になる頃には、私たちを取り巻く環境が改善し、心から春を楽しめる日が近づくことを願っています。私も自分の思いを発信し、皆さんと共有し続けたいと思っています。

発行者
(公財)北海道肢体不自由児者福祉連合協会　会長 清水 誠一
〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目
TEL 011-241-8391　FAX 011-251-5027　HP http://www.h-doshikyo.jp

道肢連協　第三種郵便物承認
令和6年4月30日発行
（定価 1部 50円 年会費に含む）